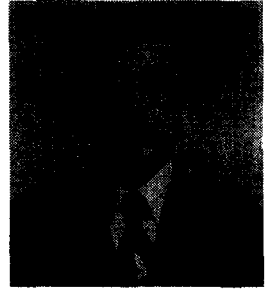


日本学術会議会員に選任されて

産業能率大学 松田 武彦



このたび、光栄にも、第14期日本学術会議会員に選挙され、去る7月25日に内閣総理大臣の辞令を頂いた。これは、日本OR学会と日本経営工学会からのご推薦によるものであり、このことに厚く感謝するとともに、学会ならびに会員に対する責任の重大を深く感じている。

ところで、今回、私が選出されたのは、7つの部のうちの第3部(経済学系)で、経済学、商学・経営学の部門とされている。この中に、専門領域として、経済理論、経済政策、国際経済、経済史、財政学・金融論、商学、経営学、会計学、経済統計学があり、私は、このうちの経営学に分類されている。同じ経営学に、いずれも旧知の島袋嘉昌東洋大学教授(第3部長)、尾関 守早稲田大学(工業経営学科)教授、後藤幸男神戸商科大学長、それに日本経営工学会推薦の高橋吉之助武蔵工業大学教授(元慶応義塾大学管理工学科)がおられるので心強い。第3部26名のうち、経営学は5名である。

ちなみに、同じ第3部の経済統計学の専門に、本学会副会長の竹内 啓東京大学教授(日本統計学会推薦)がおられる。竹内先生は、前の第13期から引続いての会員なので、7月25~27日の第105回(私にとっての第1回)総会でも、お隣りに座らせていただいて、いろいろと学術会議についてのお話を聞かせていただいた。これからも大いに頼りにするつもりである。

この総会で、本学会元会長近藤次郎東京大学名誉教授の第14期会長就任が、まことにすんなりと決まった。近藤先生の第13期会長としての手腕と業績に対する会員の評価はきわめて高く、たった1回の投票であっさり過半数が得られた。その代り、というわけでもないが、人文科学部門・自

然科学部門の両副会長の選出では、それぞれ何回も投票を重ねた上、やっと決着がついた。

実を言うと、前の第13期で、私は近藤会長の補欠であり、第5部(工学)の経営工学の専門に属して、研究連絡委員会(いわゆる研連)ももちろん経営工学関連であった。それが、今回第3部に出て、研連も経営学に移ったのであるから、いわば理系の者が文系の世界に新規参入したことになり、これに対する多少の拒否反応は予想しなければなるまいと覚悟している。

なお、日本学術会議における私の初仕事として、「経営情報」研究連絡委員会の世話人を仰せつかり、たぶん委員長を引き受けることになると思う。グローバル・ネットワーク時代の日本の組織に役に立つ情報システムの構築・運用・保守・監査・革新などに、OR/MSで学んだ概念・手法・経験を生かしてゆくのが、私の仕事だと思っている。

思えば、OR/MSと経営学、ひいては社会科学・行動科学との連係を確立し、さらにこれを強化することは、私の年来の悲願であった。いま、その歩みを進めるための体制作りに参加できる立場に置かれたことを大変しあわせに思っている。「経営情報」をはじめ、私でできるところから進んでゆきたいので、学会会員ならびに本誌読者の皆様のご後援・ご協力を切にお願いする次第である。